

江藤 拓 農林水産相インタビュー

聞き手 十勝毎日新聞社・林浩史社長

効果生み 使いやすい補助を 日米協定対策

2020年03月14日

江藤拓農林水産相が2月下旬、農水省内で十勝毎日新聞社の林浩史社長のインタビューに応じた。日米貿易協定の発効に伴う国内農家への支援策として、補助事業の要件見直しなど具体的な対策に言及。ふん尿処理の観点から重要視されるバイオガスプラント事業や、将来の担い手確保への期待が大きいスマート農業の積極的な推進も強調した。



国内農家への支援策やスマート農業について意見を交わした

◆バイオガス施設を積極応援 スマート農業は新規就農にも寄与

林 十勝は農業が基幹産業で、去年のＪＡ取扱高は過去最高の3549億円を記録した。都道府県別では大臣の出身地でもある、５位の宮崎県（2017年・3524億円、農水省まとめ）と同規模になる。十勝農業に対する大臣の印象は。

江藤 北海道は機械化、大規模化が進んで、非常に生産効率が低い。４年輪作のような形を取るなど、畑作も酪農も、工夫をして新しい形のモデルを示してくれている。特に酪農は加工原料の９割、乳量も５割近いものが北海道産。食糧基地としての期待は大きい。北海道は初妊牛をつくり、都府県、九州の酪農を間接的に支えている。

また、十勝地方は九州人にとって憧れ。子どもの頃から店で売っているのは「十勝バター」だった。